

「スポタ」の大晩課

首誦聖詠の後に常例の聖詠經の誦文。

「主よ、爾に籲ぶ」に十句を立てて、八調經の主日の讚頌三章、アナトリエの四章、月課經の三章或は六章を歌ふ。若し聖人の祭日ならば、光榮、月課經の、今も、本調の第一の生神女讚詞。

八調經の主日の讚頌、第一調。

句、我が靈を獄より引き出して、我に爾の名を讚榮せしめ給へ。
聖なる主よ、我が晩の禱を納れて、我等に罪の赦を與へ給へ、爾は獨世界に復活を顯しし者なればなり。

句、爾恩を我に賜はん時、義人は我を環らん
人人よ、シオンを廻り、之を圍みて、是の中より復活せし主に光榮を歸せよ、彼は我等を不法より救ひし吾が神なればなり。

句、主よ、我深き處より爾に呼ぶ。主よ、我が聲を聴き給へ。
人人よ、來れ、歌ひてハリストスを拜み、其死より復活せしを讚榮せん、彼は敵の誘惑より世界を救ひし吾が神なればなり。

又讚頌、總主教アナトリエの作、第一調。

句、願はくは爾の耳は我が禱の聲を聴き納れん。
諸天は樂しめ、地の基は角を吹け、諸山は歡びて呼べ、蓋視よ、エマヌイルは我等の罪を十字架に釘せり、生を賜ひ、アダムを復活せしめし者は死を殺せり、人を愛する主なればなり。

句、主よ、若し爾不法を糾さば、主よ、孰か能く立たん。然れども爾に赦あり、人の爾の前に敬まん爲なり。

甘じて我等の爲に身にて十字架に釘せられ、苦を受け、葬られ、死より復活せし主を歌ひて曰はん、ハリストスよ、正教を以て爾の教會を堅め、我等の生命を平安ならしめ給へ、爾は仁慈にして人を愛する主なればなり。

句、我主を望み、我が靈主を望み我彼の言を待む。
ハリストス我が神よ、我等不當なる者は生命を籠むる爾の墓の前に立ちて、爾の言ひ難き慈憐に讚榮を奉る。蓋爾は罪なき者よ、世界に復活を賜わん爲に、十字架と死とを受け給へり、人を愛する主なればなり。

句、我が靈主を待つこと、番人の旦を待ち、番人の旦を待つより甚し。
父と同無原同永在なる言、言ひ難く童貞女の胎より出でて、我等の爲に甘じて十字架と死とを受け、光榮の中に復活せし者を歌ひて曰はん、生命を賜ふ主、我が靈の

第一調 「スポタ」の大晩課 五

第一調 「スポタ」の大晩課 六

救者よ、光榮は爾に歸す。他の讚頌、至聖なる生神女に捧ぐ、アモレイのパフェルの作、月課經の讚頌の無き所、或は「リティヤ」に歌ふ所の者。

讚頌、第一調。

句、願はくはイズライリは主を恃まん、蓋憐は主にあり、大なる贖も彼にあり、彼はイズライリを其悉くの不法より贖はん。
聖なる衆軍より聖にして一切の造物より尊き生神女、世界の女宰、救世主を生みし者

よ、爾の祈祷を以て我等を 諸の罪と疾病と災禍より救ひ給へ。

句、萬民よ、主を讃め揚げよ、萬族よ、彼を崇め讃めよ。

慈憐の門なる少女よ、切に爾に祈る、我が卑微なる靈を棄つるなく、速に憐を垂れて、之を我が諸罪の淵より救ひ給へ。潔き童貞女よ、爾の恩寵を新にして、我の上

に輝かし給へ。

句、蓋彼が我等に施す憐は大なり、主の眞實は永く存す。女宰よ、爾は神を人人に合せ給へり、爾は獨死に屬する性を神聖なる不朽に升せたり。爾は地上の者に救を流し給へり。爾、生神女よ、我等を 諸の苦難より脱れしめ給へ。

光榮、月課經の。今も、生神女讃詞。

人より生れて主宰を生みし全世界の光榮と天の門なる童貞女マリヤ、諸天使の歌、諸信者の飾なる者を讃め歌ふべし。彼は天と均しく、神の宮と均しき者として顯れたり、彼は仇の隔を破りて和睦を締結び、國を開けり。我等は彼を信の固と爲し、彼より生れし主を扞ぎ衛る者と爲す。勇めよ、神の民よ、勇めよ、主は敵に勝たん、全能者なればなり。

聖入。「穩なる光」。本日の提綱を歌ふ、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。句、主は能力を衣、又之を帯にせり、句、故に世界は堅固にして動かざらん。句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。

次ぎて常例の聯禱。「主よ、我等を守り、罪なくして此の晩」。「我等主の前に吾が晩の禱」。高聲の後本堂の讃頌を歌ひて、前院に出で、熱衷公禱を行ふ。此の中にアモレイのパウエル

の讃頌、或は聖務長の示す所を歌ふ。常例の祝文の後堂に入る、其時左の讃頌を歌ふ。第一調。

ハリストスよ、爾の苦にて我等は苦を免れ、爾の復活にて我等は淪滅より救はれたり。主よ、光榮は爾に歸す。

又讃頌 第一調 「スポタ」の大晩課 七 第一調 「スポタ」の大晩課 八

句、主は王たり、彼は威嚴を衣たり。造物は喜ぶべし、諸天は楽しむべし、諸民は楽しみて手を拍つべし。蓋吾が救世主ハリストスは我等の罪を十字架に釘し、死を殺して、我等に生を賜ひ、萬族の原祖たる陥りしアダムを復活せしめ給へり、人を愛する主なればなり、

句、故に世界は堅固にして動かざらん。悟り難き主よ、爾は天地の王にして、仁愛に因りて甘じて十字架に釘せられたり。地獄は下に爾を迎へて哀しみ、義人等の靈は爾を接けて喜び、アダムは爾造成主を最下なる處に見て復活せり。嗚呼奇蹟や、萬有の生命は如何ぞ死を嘗めたる、是れ世界を照さんと欲せし故なり。此に由りて世界は呼びて云ふ、死より復活せし主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、聖徳は爾の家に屬して永遠に至らん。攜香女は香料を攜へ、急ぎ且哭きて爾の墓に至りしに、爾の至浄なる體を得ずして、天使に因りて新しき至榮なる奇蹟を知りて、使徒等に謂へり、世界に大なる憐を賜ふ主は復活し給へり。

光榮、若し之あらば、^{ミネヤ}月課經の。若しなくば、光榮、今も、

生神女讚詞

視よ、イサイヤの預言應ひて、童貞女は子を生めり、生みし後も生む前の如く童貞女なり、生れし者は神なるに因る、故に天性は改め易へられたり。嗚呼神の母よ、爾の諸僕が爾の堂に獻ぐる祈禱を棄つる勿れ、恵深き主を爾の手に抱きし者として、爾の諸僕を憐みて、我等の靈の救はれんことを祈り給へ。

次ぎて「主宰よ、今爾の言に循ひて」。聖三祝文。「天に在す」の後に、

主日の讚詞、第一調。

救世主よ、イウダヤの人墓を封じて、兵卒爾の潔き軀を守る時、爾は三日目に復活して、世界に生命を賜へり。故に天軍は爾生命を施す主に呼べり、ハリストスよ、光榮は爾の復活に歸し、光榮は爾の國に歸す、獨人を慈む主よ、光榮は爾の慮に歸す。

生神女讚詞

童貞女よ、ガウリイルが爾に慶べよと告げし時、其聲に従ひて萬有の主宰は爾聖なる約櫃に身を取り給へり、義なるダウイドの言ひしが如し。爾の造成主を妊みて、爾は天より廣き者と現れたり。光榮は爾に入りし者に歸し、光榮は爾より出でし者に歸し、光榮は爾の産にて我等を釋き給ひし者に歸す。

其他の次第。「主は神なり」にも同讚詞。

早課

六段の聖詠畢りて「主は神なり」、第一調に依りて歌ひ、後主日の讚詞。二次、生神女讚詞。一次。大晩課に載す。次ぎて聖詠經の常例の誦文。

第一の誦文の後に主日の坐誦讚詞、第一調。

救世主よ、爾の墓を守る兵卒は女等に現れて復活を傳ふる天使の光輝に因りて死せ

第一調 主日の早課 二七

第一調 主日の早課 二八

し如くなれり。我等爾朽壤を滅す者を讚榮し、爾墓より復活せし我等の唯一の神に伏拜す。

句、主我が神よ、起きて、爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。鴻恩の主、生命を施す有能者よ、爾は甘じて十字架に釘せられ、死者として墓に置かれて、爾の死を以て權柄を破り給へり。蓋地獄の門衛は爾を畏れて慄き、爾は古世より死せし者を己と偕に起し給へり、獨人を慈む主なればなり。

光榮、今も、生神女讚詞。

我等皆爾を神の母、産の後にも實に童貞女なりと知りて、愛を以て爾の慈憐に趨り附く。蓋我等罪なる者は爾を轉達として有ち、爾獨純潔なる者を誘惑の中に救として得たり。

第二の誦文の後に坐誦讚詞、第一調。

女等朝早く墓に來り、天使の顯現を見て慄けり。墓は生命を輝かし、奇蹟は彼等を驚かせり、故に彼等は往きて門徒に復活を傳へたり。ハリストスは獨有能有權なる者として、地獄を虜にし、朽ちたる者を皆己と偕に起し、十字架にて定罪の畏懼を解き給へり。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇跡を傳へん。
萬有の生命よ、爾は十字架に釘せられたり、不死の主よ、爾は死者の中に入りたり、
救世主よ、爾は三日目に復活してアダムを己と偕に朽壞より起し給へり。故に天軍は
爾生を施す主に呼べり、ハリストスよ、光榮は爾の神聖なる苦に歸す、光榮は爾の
復活に歸す、獨人を愛む主よ、光榮は爾の寛容に歸す。

光榮、今も、生神女讃詞。

マリヤ、主宰の尊き住居よ、我等甚しき失望と、諸罪と、憂患との淵に陥りし者を起
し給へ。蓋爾は罪なる者の守護と、扶助と、堅固なる轉達にして、爾の諸僕を救ひ給
ふ。

次ぎて「道に玷なくして」。其後諸讃詞、「救世主よ、天使の軍」、本書の末に載す。次に
小聯禱。

應答歌、第一調。

盜賊の悔は樂園を奪ひ、攜香女の哀は喜を知らせたり、蓋爾、ハリストス神よ、復活
して、世界に大なる憐を賜へり。

品第詞。第一偈和詞、第一調。毎句復唱す。

我が憂の時、私の痛歎を聴き給へ、主よ、我爾に呼ぶ。
野に居りて虚しき世の外に在る者には恒に神聖なる望あり。

第一調 主日の早課 二九
第一調 主日の早課 三〇

光榮

聖神には父及び子と均しき尊敬と光榮とは適ふ。故に我等同一權能の聖三者を歌はん。

今も、同上。

第二偈和詞

神よ、爾は我を爾の律法の山に登せたり。諸徳にて我を飾り給へ、我が爾を歌はん爲
なり。

言よ、爾の右の手に我を取りて、我を蔭ひ、我を守り給へ、罪の火が我を焚かざらん爲
なり。

光榮

聖神に因りて凡の造物は新にせられて、復初の状に還る、父及び言と均しく有能なれ
ばなり。

今も、同上。

第三偈和詞

人我に向ひて、主の家に住かんと云ふ時、我が神は樂しみ、心も共に喜ぶ。
ダワイドの家には大なる畏懼あり、蓋彼處に寶座は立てられて、地上の萬族萬民は審判

せられん。光榮
聖神には父及び子と均しき尊敬、伏拜、光榮、權柄を歸すること當然なり、蓋聖三者は性
にて惟一なり、唯位にては然らず。

今も、同上。

提綱、第一調。

主曰く、我今興き、執へられんとする者を危からざる處に置かん。句、主の言は淨き言
なり。

「凡そ呼吸ある者は」。順序の早課福音經。

ハリストスの復活を見て、聖なる主イイスス獨罪なき者を拜むべし。ハリストスよ、我等爾の十字架を拜み、爾の聖なる復活を歌ひ讃む、爾は我等の神なればなり、爾の外他の神を知らず、唯爾の名を稱ふ。信者よ、皆來りて、ハリストスの聖なる復活を拜むべし、十字架にて歡喜は全世界に臨みたればなり。我等恒に主を讃め揚げて、其復活を崇め歌はん、主は十字架に釘うたるるを忍びて、死を以て死を滅ししに因る。

第五十聖詠、「神よ、爾の大なる憐に因りて」。

光榮

使徒の祈禱に依りて、憐深き主よ、我等の多くの罪を淨め給へ。

今も

生神女の祈禱に依りて、憐深き主よ、我等の多くの罪を淨め給へ。

第一調 主日の早課 三一

第一調 主日の早課 三二

次ぎて、第六調。

神よ爾の大なる憐に因りて我を憐み、爾が恵の多きに因りて我の不法を抹し給へ。

讚頌

預め言ひし如く、イイスス墓より復活して、我等に永遠の生命と大なる憐とを賜へり。

「神よ、爾の民を救ひ」。高聲「爾が獨生子の仁慈と慈憐と」。

規程四篇、主日の、讚詞四章、十字架復活の、三章、生神女の、三章、月課經の、四章。若し聖人の祭ならば、聖人の、六章、十字架復活の、二章、生神女の、二章。

主日の規程、第一調。

第一歌頌

イルモス、死せざる主よ、勝を獲る爾の右の hand は、神に適ふが如く、能力にて光榮を顯せり、其全能なるに因りて、敵を滅し、イズライリ人の爲に新なる深水の路を開きたればなり。

附唱、主よ、光榮は爾の聖なる復活に歸す。

讚詞

元始に至淨なる手にて神の力を以て我を土より作りし主は、十字架に手を伸べて、童貞女より取りし我が朽ち易き身を土より喚び起せり。二次。

光榮

神聖なる吹嘘を以て我に靈を入れし主は、我が爲に殺され、靈を死に付して、我を永遠の鎖より解き、己と偕に復活せしめて、不朽の榮を賜へり。

今も、生神女讚詞。

恩寵の泉よ、慶べ、天の梯と門よ、慶べ、燈臺と金の壺、及び截られざる山、生命を賜ふハリストスを世界の爲に生みし者よ、慶べ。

又十字架復活の規程

第一歌頌、同調。

イルモス、「ハリストス生る」。

附唱、主よ、光榮は爾の尊き十字架と復活に歸す。

ハリストスは人體を取りて我を神成し、ハリストスは卑くなりて我を高くし、ハリストス
生命を賜ふ主は身に苦を受けて我を苦より解き給ふ。故に我感謝の歌を奉る、彼
光榮を顯したればなり。

ハリストスは十字架に釘せられて我を上せ、ハリストスは殺されて我を己と偕に

第一調 主日の早課 三三

第一調 主日の早課 三四

復活せしめ、ハリストスは我に生命を賜ふ。故に我楽しみて手を拍ちて、救世主に凱歌
を奉る、彼光榮を顯したればなり。

生神女讃詞

童貞女よ、爾は神を孕めり、至淨なる者よ、爾は童貞に於てハリストスを生めり。彼は爾
より身を取りて、一位二性の獨生子と識らる、光榮を顯したればなり。

又至聖なる生神女の規程

第一歌頌、同調。

イルモス、「死せざる主よ、勝を獲る爾の右の手」。

附唱、至聖なる生神女よ、我等を救ひ給へ。

我等の不能は爾に適ふ何の歌をか爾に奉らん、唯悦ばしむる歌、ガウリイルが奥妙
に我等に教へし者なり、生神童貞女、聘女ならぬ母よ、慶べ。

我等信者は永貞童女、上なる軍の王の母に最淨き心より熱切に呼ばん、生神童貞女、聘女
ならぬ母よ、慶べ。

純潔なる者よ、爾の悟り難き産の奥義の淵は量られず。故に我等疑なき信を以て切に
爾に歌を奉りて云ふ、生神童貞女、聘女ならぬ母よ、慶べ。

次ぎて月課經の規程。

共頌、「我が口を開きて」。

第三歌頌

イルモス、獨人の性の弱きを知りて、憐を以て之を衣たる者よ、我に上よりの力を帯
びて、爾に呼ばしめ給へ、人を慈む主よ、爾の言ひ難き光榮の生ける宮は聖なり。

仁慈なる主よ、爾は我の神にして、陥りし者を憐みて、甘じて我に降り、十字架に釘
せらるるを以て我を升せて、爾に呼ばしめ給ふ、人を慈む主よ、爾の言ひ難き光榮の生
ける宮は聖なり。

本原の生命たる主宰ハリストスよ、爾は慈憐なる神にして、我朽ちたる者を衣、死に屬
する塵に下りて、死の權を滅し、三日目に死より復活して、我に朽ちざるを衣せ給へり。

生神女讃詞

童貞女よ、爾は至聖神に因りて神を孕みて、焼かれざる者と止まれり、蓋立法者モイセ
イに顯れし棘は爾堪へ難き火を受けし者の燃えて焼かれざるを明に前兆せり。

又 イルモス、「世の無き前に分離なく父より」。

第一調 主日の早課 三五

第一調 主日の早課 三六

己の肩に迷へる羊を任ひて、木を以て其罪を滅ししハリストス神に呼ばん、我等の角
を高くせし主よ、爾は聖なり。

大なる牧者ハリストスを地獄より上せて、其聖務に因りて使徒等を以て嚴に諸民を牧

せし主に、我等信者は眞實と神聖なる神とを以て務むべし。
童貞女より種なく甘じて身を取りし子、生みし者を産の後に神聖なる力を以て潔き
童貞女と護りし者、萬有の上に在る神に呼ばん、主よ、爾は聖なり。

又 **イルモス**、「獨人の性の弱きを知りて」。
童貞女よ、我等預言者の言に循ひて、正しく爾を輕き雲と稱ふ。蓋主は爾に抱かれて、**エジプト**の迷惑の手造を滅して、之に事ふる者を照さん爲に來り給へり。
讚美たる者よ、預言者の會は爾を實に封じたる泉、閉ぢたる門と稱へて、爾が産の後
にも守りし童貞の徴を明に我等の爲に像れり。
に至りて無玷なる童貞女よ、至上の智慧を能するに循ひて悟るに堪へたる**ガウリイル**は爾
に欣ばしき報信を攜へたり、明に言の降孕を知らせ、言ひ難き産を傳ふる者なり。

第四歌頌

イルモス、**アウワクム**は先知の目にて爾、神の恩寵に覆はるる山を見て、**イズライリ**の聖
なる者が我等を救ひ改めん爲に、爾より出づるを預言せり。
斯の救主、**エドム**より出で、棘の冠を冠り、血に染みたる衣を衣、木に懸かれる者
は誰ぞ、是れ**イズライリ**の聖なる者、我等を救ひ改むる主なり。
頑しき人人よ、視て愧づべし、蓋爾等が無智に因りて**ピラト**の命を乞ひて、犯罪者と
して十字架に懸けし者は死の力を破りて、神に適ふが如く墓より復活せり。

生神女讚詞

童貞女よ、我等爾が生命の樹なるを識る、蓋爾より生ぜし者は人の死を致す果に非
ず、乃永き生命の樂にして、爾を歌ふ我等を救ふ者なり。

又 **イルモス**、「**イエッセイ**の根より生ぜし枝」。
斯の美しき者、**エドム**より出で、其衣の赤きは**ウォソル**の葡萄に染みたるが如き者は誰
ぞ、神としては、美しく、人としては肉體の血に赤みたる衣を衣たる者なり。我等信者
は彼に歌ふ、主よ、光榮は爾の能力に歸す。
ハリストスは將來の福の司祭長と現れて、我等の罪を滅し、己の血を以て更に美しく、
更に全備なる幕に入る奇妙なる途を示して、我等の前驅として聖所に入り給へり。

生神女讚詞

第一調 主日の早課 三七

第一調 主日の早課 三八

讚美たる者よ、爾は我等の爲に現れし新なる**アダム**より**エワ**の古の債を赦さんこと
を求め得たり。蓋潔き降孕に因りて己に智あり靈ある肉體を合せたる**ハリストス**は
爾より出で給へり、二性にして一位なる主なり。

又 **イルモス**、「**アウワクム**は先知の目にて」。
天よ、奇蹟を聽け、地よ、耳を傾けよ、蓋塵なる陥りたる**アダム**の女は神己の造成主
の爲に母と爲るに定められたり、我等の拯救及び改易の爲なり。
讚美たる者よ、我等大にして畏るべき爾の祕密を歌ふ。蓋永在の者は天上の品位より隱
みて、雨が羊の毛に於ける如く爾に降り給へり、爾を歌ふ我等の救の爲なり。
諸聖の聖なる讚美たる生神女よ、爾より異邦民の期望、信者の拯救なる贖罪主、生を施
す主は輝き出でたり。爾の諸僕の救はれんことを彼に祈り給へ。

第五歌頌

イルモス、己の降臨の光にて世界の極を照し、己の十字架にて之を輝かししハリストスよ、爾が智慧の光にて正しく爾を歌ふ者の心を照し給へ。

イウデヤ人は大なる羊の牧者及び主を十字架の木にて殺したれども、彼は地獄に葬られたる死者を羊の如く死の權より救ひ給へり。

ハリストス吾が救世主よ、爾は十字架にて和睦を福音し、虜に赦を傳へ、權ある者を辱かしめ、爾の神聖なる復活を以て其裸體にして貧しくなりたるを顯し給へり。 生

神女讃詞

讃美たる者よ、切に爾に求むる者の禱を斥くる母れ。至淨なる者よ、之を受けて、爾の子なる神、一の恩主に捧げ給へ、我等爾を轉達者として得たればなり。

又 イルモス、「和平の神、仁慈の父よ」。

嗚呼神の智慧の富と深や。智者を執ふる主は其惡謀より我等を救へり、蓋甘じて身の弱きを以て苦を受けて、己の力を以て死者を活かして、之を起し給へり。

實在の神ハリストスは我等の爲に肉體に合し、十字架に釘せられ、死し、葬られ、又復活し、己の肉體と偕に嚴に父に升起、之と偕に來りて、敬虔に彼に事ふる者を救はん。

生神女讃詞

諸聖の聖なる潔き童貞女よ、爾は諸聖の聖にして、衆を聖にするハリストス贖罪主を生み給へり。故に我等爾萬物の造成者の母たる者を萬有の女王及び女宰として傳ふ。

第一調 主日の早課 三九

第一調 主日の早課 四〇

又 イルモス、「己の降臨の光にて」。

生神童貞女よ、天の軍は爾を見て楽しみ、人人の會は彼等と共に喜ぶ、蓋爾の産に因りて合せられたり、我等宜しきに合ひて之を讚榮す。

人人の舌と思念とは實に人類の飾なる者の讚美に動くべし。童貞女は前に立ちて、信を以て彼の奇蹟を歌ふ者を明に榮し給ふ。

睿智者の歌頌と讚美とは神の母童貞女に捧げらるべし、蓋彼は至りて神聖なる光榮の宮と爲れり。我等宜しきに合ひて彼を讚榮す。

第六歌頌

イルモス、今を限の淵は我等を圍めり、脱れしむる者なし、我等は屠所の羊の如し。吾が神よ、爾の民を救へ、爾は弱者の力と更新なればなり。

主ハリストスよ、我等は始めて造られし者の愆にて痛く傷つけられ、爾が我等の爲に受けし傷にて愈されたり、爾は弱者の力と更新なればなり。

全能の主よ、爾は己の權にて衆を呑む鯨の力を破り、之を殺して、我等を地獄より引き上げたり、爾は生命と光と復活なればなり。

生神女讃詞

至淨なる童貞女よ、我が族の原祖は罪に因りて失ひしエデムを爾に因りて復之を得て、爾の爲に楽しむ、爾は産の前にも産の後にも潔き者なればなり。

又 イルモス、「海の猛獸はイオナを」。

無慾無形の智慧なるハリストス神は人の智慧、即神の性と肉體の羸笨とを接合せしむる者に合せられ、變易なくして我全人と全く合一になれり、十字架に釘せられて、我陥りたる全人に救を賜はん爲なり。

昔アダムは神たらんとする望に欺かれて、躓きて仆れたり。今言に合せらるるに因りて神成せられて興き、苦に因りて苦なきを得、子として父及び聖神と偕に寶座に坐して讚榮せらる。

生神女讚詞

義を以て王たる神は無原なる父の懷を離れずして、潔き少女の懷に入り、先に母なく生れし者は父なくして人體を取り給ふ、其來歴は畏るべくして、悟り難く、言ひ難し。

又イルモス、「今を限の淵は」。

永貞童女よ、天の品位は僕として爾の子の前に立ち、宜しきに合ひて爾の種なき産を奇とす、爾は産の前にも産の後にも潔き者なればなり。

に至りて潔き者よ、先に無形なる言、其旨を以て一切を行ひ、全能者として無形の軍を無より有と爲しし主は爾より身を取り給へり。

第一調 主日の早課 四一

第一調 主日の早課 四二

神の恩寵を蒙れる者よ、爾が生を施す産にて敵は殺され、地獄は明に踐まれ、我等桎梏に在る者は解かれたり。故に我呼ぶ、我が心の慾を滅し給へ。

小讚詞、第一調。

主宰よ、爾は神なるに因りて光榮の中に墓より復活し、世界をも共に復活せしめ給へり。人の性は爾を神として讚め歌ひ、死は滅され、アダムは楽しみ、エワは今縛より釋かれて、歡びて呼ぶ、ハリストスよ、爾は衆人に復活を賜ふ主なり。

同讚詞

我等三日目に復活せし主を全能の神として歌はん。彼は地獄の門を破り、古世よりの死者を墓より起し、嘉せし如く、攜香女に現れて、先づ彼等に慶べよと云ひ、獨生命を施す主として、使徒等に歡喜を報らせ給へり。故に女等は信を以て門徒に勝利の表章を福音し、地獄は呻き、死は泣き、世界は楽しみ、衆は共に悦ぶ、蓋爾は、ハリストスよ、衆人に復活を賜へり。

第七歌頌

イルモス、生神女よ、我等信者は爾を見て屬神の爐と爲す、蓋先祖の尊まれて崇め讚めらるる神は、三人の少者を救ひし如く、斯く爾の腹に於て全世界を改め給へり。

地は畏れ、日は隠れ、光は暗み、殿の神聖なる幔は裂け、石は砕けたり、義なる者にして、先祖の尊まれて崇め讚めらるる神が十字架に懸り給へばなり。

爾は援助なき者の如くなりて、甘じて我等の爲に傷づけられ、死に付されたれども、萬の者を釋き、權能の手を以て己と偕に復活せしめ給へり、先祖の尊まれて崇め讚めらるる神なればなり。

生神女讚詞

常生の水の泉よ、慶べ、樂の天堂よ、慶べ、信者の垣よ、慶べ、婚姻に與らざる者よ、慶べ、全世界の歡喜よ、慶べ、先祖の崇め讚めらるる神が爾に依りて我等に輝きたればなり。

又イルモス、「偕に敬虔に養はれし少者は」。

昔弟を殺しし手に由りてアウェリの血に赤く染みたる地は詛はれたり、今爾の神たる血を注がれ、祝福せられて、楽しみて呼ぶ、先祖の神よ、爾は崇め讚めらる。

神に逆ふイウデヤの民はハリストスを殺しし狂暴の爲に泣くべし、異邦民は楽しみて、手

を拍ちて呼ぶべし、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第一調 主日の早課 四三

第一調 主日の早課 四四
視よ、輝ける天使は攜香女に呼べり、來りて、ハリストスの復活の表章なる布及び墓を見て呼べ、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

又 イルモス、「生神女よ、我等信者は爾を見て」。

生神女よ、イアコフは豫知して梯を爾なりと悟れり、蓋先祖の尊まれて崇め讃めらるる神は、嘉せし如く、爾に縁りて地に現れて、人人と偕に住ひ給へり。

潔き者よ、慶べ、爾より量り難き仁慈に因りて、實にアダムの皮肉、即我全き人を衣たる牧者は出で給へり、此れ先祖の尊まれて崇め讃めらるる神なり。

永遠なる神は爾の潔き血に由りて實に新なるアダムと爲り給へり。彼に今我古びたる者を新にせんことを祈り給へ、蓋我呼ぶ、先祖の神よ、爾は崇め讃めらる。

第八歌頌

イルモス、イズライリの少者は爐に在りて、坩堝に在るが如く、敬虔の美しきを以て黄金よりも明に輝きて云へり、主の悉くの造物は主を崇め讃め、歌ひて萬世に讃め揚げよ。

己の旨に循ひて萬物を造り、又之を變化し、己の苦にて死の蔭を易へて永遠の生命と爲す神の言よ、我等悉くの造物は絶えず爾を主として歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。

ハリストスよ、爾は地獄の門及び其防固の中に哀と苦とを滅して、三日目に墓より復活し給へり。悉くの造物は絶えず爾を主として歌ひて、萬世に讃め揚ぐ。 生

神女讃詞

種なくして性に超えて神聖なる輝に由りて最貴き眞珠なるハリストスを生みし者を歌ひて呼ばん、主の悉くの造物は主を崇め讃め、歌ひて萬世に讃め揚げよ。

又 イルモス、「露を出す爐」。

人人よ、來りて、至浄なる足の立ちし處、衆人の救の爲に木の上にハリストスの生を施す神聖なる手の伸べられし處に伏拜して、生命の墓を環りて歌はん、悉くの造物は主を崇めて萬世に讃め揚げよ。

神を殺しシイウデヤ人の至りて不法なる讒言は露れたり、蓋彼等が惑はす者と名づけし主は有能者として無智の封印を辱かして起き給へり。故に我等歡びて歌はん、悉くの造物は主を崇めて萬世に讃め揚げよ。

聖三者讃詞

至浄なるセラフィム等は聖三の歌を以て惟一の主を讃美して、僕に適ふが如く畏を

第一調 主日の早課 四五

第一調 主日の早課 四六
以て三位の神性を讃榮す。彼等と偕に我等も敬虔に歌はん、悉くの造物は主を崇めて萬世に讃め揚げよ。

又 イルモス、「イズライリの少者は爐に在りて」。

新娶者の出づる如く、萬有の主宰ハリストスが出で給ひし輝ける宮を我等皆歌ひて呼ばん、主の悉くの造物は主を歌ひて萬世に讃め揚げよ。

かみ しんじや かき よろこ なんじ よ くらやみ あ もの ひかり
神の至榮なる寶座よ、慶べ、信者の垣よ、慶べ、爾に依りて幽暗に在る者に光なるハ
リストスは輝けり。故に彼等爾を讚美して呼ぶ、主の悉くの造物は主を歌ひて萬世に讚
め揚げよ。

われら すくい きげんしゃ しゅ う さんび どうていじょ しゅう ため いの たま けだしみなせつ よ
我等の救の起原者なる主を生みし讚美たる童貞女よ、衆の爲に持り給へ。蓋皆切に呼
ぶ、主の悉くの造物は主を崇め讚め、歌ひて萬世に讚め揚げよ。

次ぎて生神女の歌を歌ふ、「我が靈は主を崇め」、附唱と共に、「ヘルワイムより尊く」。

第九歌頌

イルモス、生神女よ、燃ゆれども焼かれぬ棘は爾が潔き産の象を顯せり。祈る、今
も我等を攻め圍む誘惑の爐を撲ち滅して、常に爾を崇めさせ給へ。
嗚呼不法不順の民よ、何ぞ悪しきを謀りて、不義不虔の者を義と爲し、義なる光榮の主を木
に懸けんことを定めたる。我等宜しきに合ひて彼を崇め讚む。
救世主よ、世の罪を任ひし玷なき羔よ、我等爾三日目に復活せし者を父及び爾の神聖な
る神と偕に讚榮し、光榮の主と傳へて崇め讚む。

生神女讚詞

ひと あい しゅ なんじ とうと ち え なんじ たみ すく こうてい てき たい ちから たま
人を愛する主よ、爾の尊き血にて得たる爾の民を救ひ、皇帝に敵に對して能力を賜ひ、
爾の諸教會に平安を與へ給へ、生神女の祈祷に因りてなり。

又 イルモス、「我奇異にして至榮なる祕密」。

主よ、爾の十字架は爾の言ひ難き能力に因りて榮を獲たり、蓋爾の弱きは衆の爲に力
に超ゆる者と顯れたり。此にて強き者は地に仆されたり、卑しき者は天に升せらる。
ハリストスよ、畏るべき我等の死は殺されたり、蓋爾は地獄に在る者に現れて、死よ
りの復活を賜へり。故に我等爾を生命と復活、及び本原の光と歌ひて崇め讚む。

聖三者讚詞

むげん むきょく せい みつ しんげん い おい し ちち こ せいしん うち ゆいいち しんせい
無原無極なる性は三の神元の位に於て識らる、父と、子と、聖神との中に惟一の神性なり。
敬虔なる皇帝は之を頼みて救はる。

又 イルモス、「生神女よ、燃ゆれども焼かれぬ棘」。

童貞女よ、爾は神の先祖たる預言者ダワイドの根より生ぜり、然れども爾は實に

第一調 主日の早課 四七

第一調 主日の早課 四八

ダワイドにも榮を被らせたり、預言せられし光榮の主を生みたればなり。我等宜しきに合
ひて彼を崇め讚む。

嗚呼至淨なる生神女よ、爾の光榮の大なるは凡の讚美の法に超ゆ。然れども女宰よ、
寛容にして爾の不當なる諸僕より愛を以て爾に捧ぐる讚歌を受け給へ。

嗚呼智慧に超ゆる爾の奇蹟や、蓋爾は、純潔なる童貞女よ、獨日よりも輝きて、衆
に爾の悟り難き産の新なる奇蹟を顯し給へり。故に我等皆爾を崇め讚む。

共頌の後に小聯禱。次ぎて主我等の神は聖なり、三次。

早課の差遣詞。

「凡そ呼吸ある者」に主日の讚頌、第一調。

句、彼等の爲に記されし審判を行はん爲なり、斯の榮は其悉くの聖人に在り。

百四十九聖詠を讀み畢りて此の末節を歌う。

ハリストスよ、我等爾が救を施す苦を歌ひ、爾の復活を讚榮す。

句、神を其聖所に讃め揚げよ、彼を其有力の穹蒼に讃め揚げよ。
十字架を忍びて、死を空しくし、死より復活せし主よ、我等の生命を平安ならしめ給へ、
爾獨全能の主なればなり。

句、其權能に依りて彼を讃め揚げよ、其至嚴なるに依りて彼を讃め揚げよ。
地獄を虜にし、爾の復活にて人を復活せしめしハリストスよ、我等に潔き心を以て爾
を歌ひ、爾を讃榮するに堪へさせ給へ。

句、角の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。
ハリストスよ、我等爾が神に合ふ寛容を讃榮して、爾を歌ふ。爾は童貞女より生れて、父
に離れざりき、人として苦を受け、甘じて十字架を忍び、宮より出づるが如く墓より復活
し給へり、世界を救はん爲なり。主よ、光榮は爾に歸す。

又讃頌、アナトリイの作、同調。

句、鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。
爾が十字架の木に釘せられし時、敵の權は滅され、造物は爾を畏るるに囚りて戦ひ、地獄
は爾の力にて虜にせられたり。爾は死者を墓より復活せしめ、盜賊の爲に樂園を開き給
へり。ハリストス我が神よ、光榮は爾に歸す。

句、和聲の鉦を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鉦を以て彼を讃め揚げよ、凡そ呼吸ある者
は主を讃め揚げよ。
尊き女等は泣きて急ぎて爾の墓に詣り、墓の開けたるを觀、天使より新なる至榮の奇蹟
を知りて、使徒等に報らせて云へり、主は復活して、世界に大なる憐を賜へり。

第一調 主日の早課 四九

第一調 主日の早課 五〇

句、主我が神よ、起きて爾の手を擧げよ、苦しめらるる者を永く忘るる母れ。
ハリストス神よ、我等は爾の苦の神聖なる傷、又シオンに在りし主宰の聖務、世の末
に神妙に現れし者に伏拜す。蓋爾義の日は幽暗に寝ぬる者を照して、暮れざる光に向
はしめ給へり。主よ、光榮は爾に歸す。

句、主よ、我心を盡して爾を讃め揚げ、爾が悉くの奇蹟を傳へん。
亂を好むエウレイの族よ、耳を傾けよ、ピラトに來りし者等は何處にか在る、守る兵卒
は言ふべし、墓の印は何處にか在る、葬られし者は何處にか移されたる、賣られぬ者は何處
にか賣られたる、實は如何ぞ盜まれたる。不法なるイウデヤ人は何ぞ救世主の起くるを
讒言する。死者の中に自由なる者は復活して、世界に大なる憐を賜ふ。

光榮、早課の福音の讃頌。今も、

生神童貞女よ、爾は至りて讃美たる者なり、爾に身を取りし主は地獄を虜にし、アダ
ムを喚び起し、詛を壊り、エワを釋し、死を滅し、我等を生かせり。故に我等歌ひて呼
ぶ、斯く行ひ給ひしハリストス神は崇め讃めらる、光榮は爾に歸す。

大詠頌。次ぎて復活の讃詞。

今救は世界に及べり。我等墓より復活せし吾が生命の首なる主に歌ふ、其死にて死を滅
し、我等に勝利と大なる慈憐とを賜へばなり。

發放詞



リトルギヤ
聖體禮儀には代式の眞福詞、第一調。

敵は食物を以てアダムを樂園より引き出し、ハリストスは十字架を以て盜賊を其中に入
れ給へり、主よ、爾の國に來らん時我を懐ひ給へと呼べばなり。

句、心の清き者は福なり、彼等神を見んとすればなり。

我爾の苦に伏拜し、アダム及び盜賊と共に復活を讃揚し、朗なる聲にて爾に呼ぶ、主
よ、爾の國に來らん時我を憶ひ給へ。

句、和平を行ふ者は福なり、彼等神の子と名づけられんとすればなり。

罪なき者よ、爾は甘じて十字架に釘せられて、墓に藏められたれども、神なるに由りて
復活し、アダムを己と偕に起し給へり、爾の國に來らん時我を憶ひ給へと呼べばなり。

句、義の爲に窘逐せらるる者は福なり、天國は彼等の者なればなり。

第一調 主日の聖體禮儀 五一

第一調 主日の聖體禮儀 五二

爾の肉體の殿を三日目の葬の後に復活せしめしハリストス神よ、爾はアダムとアダム
よりする者とを己と偕に復活せしめ給へり、爾の國に來らん時我等を憶ひ給へと呼べば
なり。

句、人我の爲に爾等を語り、窘逐し、爾等の事を譎りて諸の悪しき言を言はん時は、
爾等福なり。

ハリストス神よ、攜香女は涙を垂れて、朝早く爾の墓に來りしに、白き衣を着て坐せ
る天使に逢ひたり、彼は呼べり、何を尋ぬるか、ハリストス復活せり、今より泣く勿れ。

句、喜び樂しめよ、天には爾等の賞多ければなり。

主よ、爾の使徒は命ぜられし山に來り、爾救世主を見て伏拜せり。爾彼等を萬民に教
を傳へ、洗禮を授けん爲に遣し給へり。

光榮、聖三者讃詞。

我等父に伏拜し、子を讃榮し、聖神を共に讃頌して、呼びて云はん、至聖なる三者よ、
我等衆人を救ひ給へ。

今も

ハリストスよ、爾の民は祈禱の中に爾の母を轉達として爾に捧ぐ。仁慈なる主よ、彼
の禱に因りて爾の恵を我等に垂れて、爾墓より我等に輝きし主を讃榮せしめ給へ。

ボロキメン
提綱、第一調。

主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐を我等に垂れ給へ。

句、義人よ、主の爲に喜べ讃榮するは義者に適ふ。

「アリルイヤ」、願はくは我が爲に仇を復し、我に諸民を従はしむる神は讃頌せられん。

句、大なる救を王に施し、憐を爾の膏つけられし者ダウィド、及び其裔に世々に垂
るる者よ、我爾の名に歌はん。

